

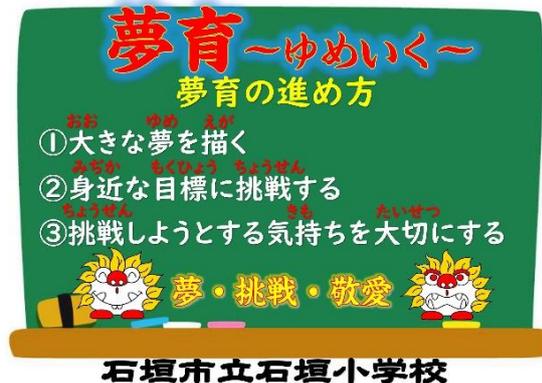
大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進 (18)



～ 「夢育 (ゆめいく)」 で自分力向上 ～

石垣小学校 校長 磯部 大輔

「KKD」って耳にしたことありますか？
ファスナーのメーカー？
ドーナツ屋さん？
アイドルグループの名前？
んー、違います。
これは、「経験」と「勘」と「度胸」という
3つの頭文字を取ってできた言葉。たとえば
トラブルが起きたときなどに、長年の「経験
と勘」すなわち自身が体験してきた過去



の事例をもとに、「度胸」によって実行に移すことだそうです。いわゆる職人技ですね。

ところで、私の職業は児童生徒の教育ですが、今の教育現場では、この KKD が通用しなくなっていて、我々教職員もアップデートしていく必要に迫られています。

社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来で、一人一台端末のICT活用、プログラミング教育、SDG's、小学校3年生からの英語教育など教育内容が幅広くなっている現在。例えば20年後、目の前の石小っ子が26～32才になった時に笑顔で社会の担い手になっているためには、今何をどうやって教えるのがいいのか。「私が若い時には・・・」、「今までこうやってうまくいったから・・・」というこれまでの経験と勘だけでは、もはや立ち向かえません。変化が激しい予測困難な時代だからこそ、未来に向けてどのような力を子供につけていくか、それが重要な課題です。

さて、児童生徒が身につけるよう求められている力(資質・能力とも言われます)がいくつかありますが、本校では児童の実態を踏まえ、「自分のよさや可能性を認識する力」を重要視しています。そして、この力(資質・能力)を「自分力(じぶんりょく)」と名付けました。「自分力」とは、自分をプラスにとらえる力、前向きにがんばろうとする力、最後までやり抜こうとする力などです。これは、石垣市教育委員会が提唱している「勇気づけの教育」の勇気に該当し、「自己肯定感(自分は自分で大丈夫)」、「自己有用感(自分は誰かから必要とされている)」を感じる力でもあります。

そして、この「自分力」を育むキーワードとして「夢育」を設定しました。

現在、「夢や目標がある」と答えられる本校の子供たちは多くありません。これは本校だけでなく、石垣市、沖縄県でも課題となっています。しかし、この結果の表す意味は、子供たちが「夢を持ってない」のではなく、「夢と出会えていない」あるいは、これまで「夢について考える時間がなかった」結果だと考えています。「将来こんなことをやってみたいな！」

というワクワク感を「夢」ととらえ、子どもたちがそんな「夢」を育み、挑戦することで、「自分力」を養う教育を進めていこうと考えています。

また、本県キャリア教育が小学校段階で目指すのは、「将来の夢を描くことができる」児童となっています。キャリア教育を本校の教育活動全体と関連づけることによっても「夢育」を推進しているところです。

本校では「夢育」の取組として、将来やってみたいこと、なってみたいものを4月に書き出してもらいました。未来に対するワクワク感ですね。そして、実現するために今必要なことを考え、見える化して取り組んでいるところです。これが「目標」となります。一週間、一ヶ月ごとに具体的な目標を立て、それを振り返り、自分の学びや育ちを実感する。その繰り返しで「自分力」が高まると考えています。

これまでの学びを継承しながら、予測困難な時代を生き抜くために必要な力「自分力」を「夢育」によって身につける。取り組んでまだ3ヶ月ですが、未来への一步を踏み出している石小っ子が、確実に増えています。

みんなが大好きな校歌の歌詞にある通り、石小っ子がワクワク感を持ち、「すくすく伸びる夢の子」として自分らしく輝けるよう、本校教職員一同「夢育」に力を注いでいきます。私自身10年前には教頭として、そして創立140周年と校舎新築の節目の年に校長として関わることができ、ワクワク感を止められません。

子育て真っ最中のみなさま、子供たちは未来からの留学生、大切な将来の人財(材)です。今夜は一家団らんで、お子様の「夢」について語ってみてはいかがでしょうか。きっと楽しいひとときになりますよ。